



栄養師さんの説明を熱心にきく婦人会のみなさん

県では、台所設備を一通りそろ

え台所のモデルケースとして、食

栄養料理の実習と試食

台所用具をそろえた巡回指導車

生活の改善のため栄養料理の実習を行なう巡回栄養指導車を購入しました。この指導車は、目でみる食生活改善として県内をくまなく巡回しているもので、一月二十七日に光町へ来ました。橋場青年館には、婦人会員のみなさんが集まり、栄養師さんの講義に耳をこたむけ熱心にメモをとっていました。

ました。工場を誘致する前に、良く内容の実態を知り公害のない、住民が安心して生活の出来るよう努力することが大切です。他の市町村にくらべ光町は、住み良い町であることを知りうれしく感じました。毎年物価は、うなぎのぼりにあがってとどまるところを知りませ

いくつかの流通機構を通過して、消費者の手元にくる時には生産者には、想像もつかない高値になっています。お互いに研究し、少しでも安定した消費生活が出来るよう努力しなければなりません。一人の力ではどうすることも出来ないことも、婦人会の組織の力を通し一致団結し、お互いに手と手を取り合

火災の多発時期にあたって

火の始末を再確認

春の全国火災予防運動が十三日まで実施されます。空気が乾燥し、火災が多発しやすい、また強い風が吹くと大火災になります。

一、二、三月の三月月で一年間の四割近くの火災が発生しています。

火災は、一瞬にして何もかも灰にしてしまいます。

火災を出さないよう次の点に十分ご注意ください。

一、就寝する前と外出する時に火の元の安全を確認する

就寝時や外出後の火災は発見が遅れがちとなりやすく、消火が遅れ大きな火災になりやすい。

とくに、火災による死者は、就寝時の火災に多く発生しており老人、子供、病人だけの留守居中に火災が発生し、避難できずに焼死した例もあります。

就寝する前と外出する前には必ずコンロ、ストーブなどの火の始末は安全か、電気コタツ、電気アイロンなどのスイッチの切り忘れはないかなどを確認してください。

二、寝タバコとタバコの投げ捨てはしないように

タバコの火の始末も大切であり、タバコの火の不始末が火災原因のトップを占めています。

タバコを置き忘れたり、消えたとしたタバコの吸いがらから火災になることがあります。

タバコは灰皿のあるところで吸い、燃えやすいもののあるところでは吸わないこと。タバコの消し忘れはないか、完全に消したか、灰皿の始末は安全を確認し、灰皿の吸いがらは水でよく消してから捨ててください。

三、コンロ、ストーブの取り扱いを安全に

これらの器具は、取り扱いを誤ると火災の原因となりやすく、正

タバコは灰皿のあるところで吸い、燃えやすいもののあるところでは吸わないこと。タバコの消し忘れはないか、完全に消したか、灰皿の始末は安全を確認し、灰皿の吸いがらは水でよく消してから捨ててください。

三、コンロ、ストーブの取り扱いを安全に

これらの器具は、取り扱いを誤ると火災の原因となりやすく、正

四、子供の火遊びにはくれぐれもご注意ください

火遊びによる火災も多く、子供の火遊びによるものが主なものです。

子供にマッチ、ライターなどをたせないように。

またストーブなど火に対する取り扱いを正しく教えましょう。

五、たき火の火の始末は完全に毎年、たき火による火災も多く起きています。

たき火の火の粉が飛んで家を焼いたり、消えたと思った残り火が燃えだして火災になる場合もあります。

たき火をするときは、まわりに家の軒先やヘイ、燃えやすいものがないかよく調べ、家のたてこんだ所ではやめて、できるだけ広い場所ですることです。

風の強いときや、空気が乾燥しているときはたき火をやめ、火の粉の飛びやすい物は燃やさないことです。

また、あらかじめ水バケツを用意してから始め、とび火の防止や消火に備え、たき火がすんだあとは水でよく消して火が残らないようにしましょう。

火災は早くみつめて、早く消せば大事に至らずに済みます。

火事を発見したら、すぐにまわりの人に知らせたり、消防機関に通報しましょう。



しく取り扱わねばなりません。

春先は暖かい日が続くと暖房も忘れがちとなり、外出する時など暖房器具の消し忘れなど火の始末を忘れやすくなります。

暖房器具は、使用しないときは必ず火を消しておきましょう。

また、老人、子供、病人だけを

家に残して外出しないようにしましょう。主婦が外出中、幼児がストーブを倒して火事になり幼い生命を失った例もあります。

四、子供の火遊びにはくれぐれもご注意ください

火遊びによる火災も多く、子供の火遊びによるものが主なものです。

子供にマッチ、ライターなどをたせないように。

またストーブなど火に対する取り扱いを正しく教えましょう。

五、たき火の火の始末は完全に毎年、たき火による火災も多く起きています。

たき火の火の粉が飛んで家を焼いたり、消えたと思った残り火が燃えだして火災になる場合もあります。

たき火をするときは、まわりに家の軒先やヘイ、燃えやすいものがないかよく調べ、家のたてこんだ所ではやめて、できるだけ広い場所ですることです。

風の強いときや、空気が乾燥しているときはたき火をやめ、火の粉の飛びやすい物は燃やさないことです。

また、あらかじめ水バケツを用意してから始め、とび火の防止や消火に備え、たき火がすんだあとは水でよく消して火が残らないようにしましょう。

火災は早くみつめて、早く消せば大事に至らずに済みます。

火事を発見したら、すぐにまわりの人に知らせたり、消防機関に通報しましょう。